

小麦の雪腐小粒菌核病に適用拡大。
高品質な麦生産に寄与します。

麦・たまねぎ・てんさいの殺菌剤

「シルバキユアフロアブル」

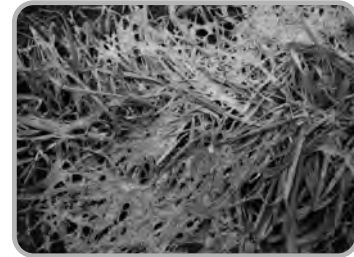
シルバキユアフロアブルは、ドイツ・バイエル社が開発したトリアゾール系のエルゴステロール生合成阻害剤EBI(DMI)「アブコナゾール」を有効成分とする薬剤で、小麦の赤かび病、赤さび病およびうどんこ病の防除薬剤として幅広くご利用いただいております。シルバキユアフロアブルの特性、登録拡大情報(小麦の雪腐病および大麦他)についてとりまとめましたのでご使用の参考となれば幸いです。

シルバキユアフロアブルの特長

1 「幅広い殺菌スペクトラムを有しています」
小麦の赤かび病・赤さび病に対する優れた防除効果を示します。さらに赤かび病菌が産生するデオキシニバレノール(DON)の抑制効果が高く小麦の品質および安全性向上に有効です(小麦赤かび病および赤さび病の抑制のための防除適期は開花始およびその2週間後となります)。
また、今回登録拡大になりました小麦の雪腐小粒菌核病は、北海道全道に広く分布して発病する病害であり、シルバキユアフロアブルはその雪腐小粒菌核病に対しても高い効果を示し確実な防除を可能にします。

2 「浸透移行性を有しています」
葉に処理されたシルバキユアは、そこに留まって効果を発揮するのみでなく、葉表面から吸収され、1週間程度で葉の先端部に移行して葉全体を長期間カバーします。

3 「環境に対する影響の少ない薬剤です」
人畜毒性は普通物相当、魚毒性はA類相当です。また、蚤やミツバチなどの有用昆虫に対して影響も少ない薬剤です。



●雪腐褐色小粒菌核病による被害



●雪腐黒色小粒菌核病 病徴



■バイエルクロップサイエンス株式会社

登録拡大内容

平成20年6月30日付でシルバキユアフロアブルが登録拡大いたしました。登録拡大により、麦の場面で「層使いやすくなり」ました。
登録拡大した内容は以下の通りです。
①「小麦」に適用病害…「雪腐小粒菌核病(根雪前、1回)1000〜2000倍および16倍無人ヘリ散布」が追加され、テブコナゾールを含む農薬の総使用回数「2

回以内」から「3回以内(根雪前は1回以内、融雪後は2回以内)」に変更されました。
②「うどんこ病、赤かび病、赤さび病」の使用時期が「収穫14日前まで」から「収穫7日前まで」に変更されました。
③適用作物名に「大麦(うどんこ病、赤かび病)16倍無人ヘリ散布」が追加されました。(表1)

小麦の雪腐病について

雪腐病は積雪下において感染・蔓延する病害のため、耕種的防除としては「融雪を促して根雪期間を短くする」「連作を避け、輪作する事によって感染源を少なくする」などがあげられます。北海道で発生する小麦の雪腐病には、①雪腐黒色小粒菌核病、②雪腐褐色小粒菌核病、③雪腐大粒菌核病、④紅色雪腐病、⑤褐色雪腐病の5種類があります。(表2)

シルバキユアフロアブルによる雪腐病防除について

シルバキユアフロアブルは①雪腐黒色小粒菌核病と②雪腐褐色小粒菌核病に卓効を示します。(図1・図2)
雪腐病の防除としては、根雪前の散布を行います。
また、紅色雪腐病および雪腐大粒菌核病の発生地域においては、それらに効果のある薬剤(ヘフランまたはトップジンMなど)との混用をお勧めします。

おわりに

シルバキユアフロアブルは高品質な麦の安定生産に寄与できるものと確信しております。
登録拡大してさらに使いやすくなったシルバキユアフロアブルを今後とも「愛顧いただきますようよろしくお願い申し上げます。

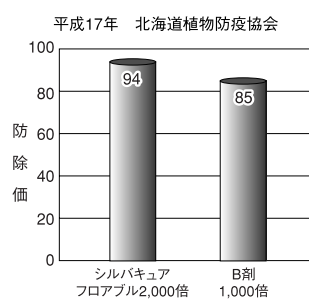
■表1 麦における適用病害および使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	10アール当り使用量(L)	使用時期	総使用回数	使用方法
小麦	赤かび 赤さび うどんこ病	2,000	60~150	7日	3回 (根雪前は1回、 融雪後は2回)	散布
		16	0.8			無人ヘリコプター散布
	雪腐 小粒菌核病	1,000~2,000	60~150	根雪前		散布
		16	0.8			無人ヘリコプター散布
大麦	うどんこ病 赤かび病	16	0.8	14日	2回	無人ヘリコプター散布

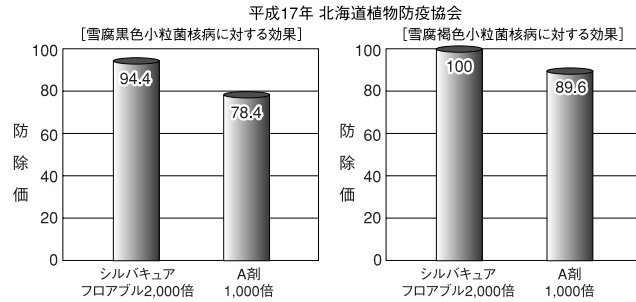
■表2 雪腐病 支庁別調査結果(北海道病害虫防除所:2008.4)

支庁	栽培面積	発生面積率		被害面積率		発生面積の病菌別発生割合(%)				
		本年	平年	本年	平年	褐色	紅色	黒色小	褐色小	大粒
釧路	198	10.1	36	0	7.0	0	20	80	0	0
十勝	45,957	13.8	27.4	1.2	4.2	4.6	0	21.7	2.5	71.2
日高	104	0	9.9	0	0					
胆振	2,018	4.2	23.8	0	1.9	0	1.1	29.9	5.2	63.5
網走	16,137	16.4	26.9	0.4	5.6	0	16.8	47.6	32.5	3.2
留萌	565	71.3	64.6	5.5	4.8	0	4.1	0	95.9	0
上川	7,533	73.7	87.9	15.8	30.5	27.6	8.9	10.7	52.8	0
空知	15,329	64.2	80.3	4.3	20.0	7.3	9.9	17.1	64.6	1
後志	1,179	19	68.3	0	7.2	0	1.5	10.4	88.1	0
檜山	80	6.3	33.9	0	3.0	0	0	30	70	0
渡島										
石狩	7,604	74.7	78.9	12.4	16.9	6.6	2	5.3	85.5	0.6
合計	96,703	31.8	43.1	3.5	9.7					

■図2 雪腐褐色小粒菌核病に対する効果



■図1 雪腐黒色小粒菌核病・雪腐褐色小粒菌核病に対する効果



●図1) 試験場所:北海道北広島市
発生状況:両病害とも 中発生
品種:ホクシン 播種:平成17年9月27日
区制・面積:1区 10m²(2×5m) 3反復
処理:平成17年12月2日
調査:平成18年4月28日
積雪期間:平成17年12月9日~平成18年4月22日(138日)

●図2) 試験場所:北海道河東郡音更町
発生状況:多発生
品種:ホクシン 播種:平成17年9月24日
区制・面積:1区 9.24m²(2×5m) 3反復
処理:平成17年11月24日
調査:平成18年3月29日
積雪期間:平成17年11月29日~平成18年3月25日(120日間)